

## TCFD 提言への対応に関する基本方針

auじぶん銀行は、気候関連財務情報開示タスクフォース(TCFD)に賛同する KDDI グループの一員として、以下のとおり TCFD 提言に沿った気候変動に関連する情報(以下、「気候関連情報」)を開示します。

### [1]ガバナンス

当社は、環境・社会課題を経営上のマテリアリティ(重要課題)として捉え、取締役会にて「サステナビリティ経営方針」を制定し、サステナビリティに関する活動を推進しております。

マテリアリティごとの取組は、半期に一度達成状況を経営会議・取締役会へ報告し、組織横断的に協議する体制を構築しております。

今後、気候関連のリスクが当社経営に与える影響についても、組織横断的に協議する体制の構築に努めてまいります。

### [2]戦略

当社は、「サステナビリティ経営方針」に基づき、環境・社会課題を経営上のマテリアリティ(重要課題)として認識しております。

当社の経営に与える気候関連のリスクおよび機会として、以下のものを想定しています。

今後は、当社保有資産のエクスポージャー等を踏まえた優先順位付けおよびシナリオ分析を通して気候関連のリスクおよび機会を特定・評価し、それらに対する対応策を検討してまいります。

#### <機会>

・環境配慮型住宅ローン施策等、脱炭素社会への移行に取り組むお客さまをご支援するための金融サービスを開発/提供することで、当社サービスの提供機会を増加させるとともに、持続可能な社会への発展に貢献することを目指します。

#### <リスク>

##### ■物理的リスク

・台風/洪水等の異常気象により、住宅ローン融資物件の担保価値減少による与信費用の増加や、営業拠点の被害による業務運営へ影響を及ぼす可能性がございます。

##### ■移行リスク

・法規制強化や建築資材価格の高騰等で物件価格が高騰し、住宅市場が縮小することで収益機会が減少する可能性がございます。

### [3] リスク管理

当社は、取締役会が制定する「リスク管理規則」に基づき、事業運営におけるリスクの特定・評価・管理をしております。今後、気候関連のリスクについても管理体制の構築に努めてまいります。

### [4] 指標と目標

当社では、グループ方針に従い、2030年度までにCO<sub>2</sub>排出量実質ゼロ（スコープ1,2）を目指しています。これに基づき、スコープ1,2のGHG排出量を以下のとおり、計測・開示しております。

CO <sub>2</sub> 排出量	2024年度（実績）	2025年度（実績）
スコープ1	0t-CO <sub>2</sub>	0t-CO <sub>2</sub>
スコープ2	約5.08t-CO <sub>2</sub>	約14.11t-CO <sub>2</sub>

※定義精緻化により2025年度よりデータセンター電力量をスコープ2へ追加

さらに2025年度より、気候変動対応に資する投融資残高目標を定めて当該投融資を推進しております。

投融資	2030年度（目標）
環境配慮型住宅に対する住宅ローン	残高1兆円

2025年度（実績）
残高0.7兆円